

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
議長(臼井会長)	<p>※ 委員発言が行われた部分のみ記述する。</p> <p>「(1) 令和5年度入間市地域包括支援センター運営方針について」を議題とする。事務局から説明をお願いする。</p>
今村主査	<p>資料1-1 令和5年度 入間市地域包括支援センター運営方針(案)</p> <p>資料1-2 令和4年度 入間市地域包括支援センター運営方針</p> <p>資料1-3 入間市地域包括支援センター運営方針新旧対照表</p> <p>資料1-4 日常生活圏域別人口等</p> <p>を用いて説明。</p>
議長(臼井会長)	<p>事務局から説明があった。各委員のご質疑、ご意見をいただきたい。</p>
内田委員	<p>地域包括支援センターは、地区センターと協力・連携を図るとあるが、具体的にどのような連携か。</p> <p>チームオレンジいるまはなぜ単独で位置づけられているのか。チームオレンジいるまをどのように運営していくのか。地域ケア会議がこれまで定期的に行われていたが、ここで年3回となったが、これまでほどの程度行われていたのか。</p>
富田主幹	<p>地区センター化では、市内を9地区に分けることになる。公民館、支所機能の他に自治振興、防災、福祉総合相談、地域包括支援センター機能が加わる。公民館内に移る包括もあり、より市民にとって利用しやすくなる。介護予防事業なども公民館と連携し、進めていくことになる。また、包括支援センターの生活支援コーディネーターは、自治振興機能との連携も図っていくことになる。</p>

発 言 者	発 言 内 容
大澤委員	<p>チームオレンジいるまに参加するために、認知症サポーター養成講座の次の段階として、ステップアップ研修がある。こちらを受講していただいた方にチームオレンジいるまに入っていただき、活動をしてもらっている。設立は令和3年6月になる。当初は、コロナ禍で会議等はできていなかった。令和4年度になってから少しずつ活動ができています。令和4年9月の世界アルツハイマーデーにイオンスタイル入間で認知症カフェを開催した。そこにチームオレンジいるまの方に参画いただいた。今は20名強の活動となる。将来的には、ステップアップ研修を受講された方に多く参加、活動してもらい、ゆくゆくは地域包括支援センターを舞台にして、活動に取り組んでもらえればと思っている。地区センター、チームオレンジいるまと連携、協力していただき、街づくりの面でも地域包括支援センターにも関わっていただければと思っているところである。</p> <p>地域ケア会議は包括支援センターごとに開催回数にバラつきがある。令和3年度0回が2か所。1回が1か所。2回が3か所。3回が1か所。4回が1か所。7回が1か所となっているため、3回という目標を設定して、個別ケースの対応、話し合いの機会を設けていただければと思います、今回、回数を変更させていただいた。</p> <p>個別地域ケア会議年3回以上と記載されているが、1回につき何事例検討してくださいという指示はあるか。自立支援型地域ケア会議は年何回の予定があるか。圏域別地域ケア会議は年1回以上とあるが、第2層生活支援コーディネーターは内容が重複していないか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
富田主幹	<p>個別地域ケア会議は何事例ということはない。自立支援型地域ケア会議は、コロナ禍のため、定期開催ができていない。要領では年12回開催となっている。圏域別地域ケア会議は第2層の活動と重なる点もあるが、必要な社会資源、地域づくりということも含め個別ケース等での情報共有ということも含めた形になる。内容的には重なる部分もあると認識はしている。</p>
大澤委員	<p>意見として、第2層生活支援コーディネーターの会議と圏域別の地域ケア会議で内容が重なってくるのではないかとすることを述べさせていただく。あとは、高齢者の会議も増えていく中で、個別地域ケア会議について年3回という回数だけでなく、1回につき何事例もまわしていったほうがよいと思う。</p>
富田主幹	<p>承知しました。</p>
米内山委員	<p>チームオレンジいるまの増員に向けて、来年度何回くらい講座を予定しているか。</p>
富田主幹	<p>認知症サポーター養成講座は、各地域包括支援センターにいる認知症地域支援推進員に開催していただいている。修了生を対象としたステップアップ研修は、年1回の開催を計画している。本年度も令和5年1月11日、12日にステップアップ研修を開催して、チームオレンジいるまに参画をいただく。</p>

発 言 者	発 言 内 容
遠藤委員	<p>コロナ前とコロナ後で、高齢者の認知症、健康面などの状況も変わってきていると思うので、比較する意味でも可能ならば、年度比較で資料1-4を頂きたい。</p>
富田主幹	<p>資料の件については承知いたしました。</p>
米内山委員	<p>所沢や川越では、高齢者に対し、歯科医の先生による訪問検診がある。入間市ではないので、行政としてみていただけるとよいと思う。</p>
議長(白井会長)	<p>所沢市小手指の歯科医の先生は、入間市内まで診てくれていたりするが、入間市内であっても個人開業の方だったりすると、中々訪問することが難しい面もあると思う。</p>
貝田副主幹	<p>資料2 地域密着型サービス事業所の「運営推進会議」についてを用いて説明。</p>
議長(白井会長)	<p>事務局から説明があった。各委員のご意見をいただきたい。</p>
内田委員	<p>コロナウイルス感染症が拡大し始めてから3年が経過している。運営推進会議を中止としない方法はないか。小さい事業所などをサポートする方法はないか。コロナ禍で事業所同士の繋がりも薄くなっている中で、困難な事例が出てきた時に、事業所ごとに判断しなくてはいけなくなる。中止をしないで済む方法についてお考えはあるか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
貝田副主幹	<p>小さい事業所から、運営推進会議を運営していくのは大変という相談もある。どういことを議題にしてよいのかもわからない。人の集め方もわからないという時には民生委員を紹介したりサポートしている。通所介護事業所だと、それぞれで地域の人を呼ぶとまばらになってしまう。市が音頭を取って、同じ地域の通所介護事業所で共同開催ができたらよいと思っている。</p>
米内山委員	<p>資料2の表の中で、グループホームの実施が少ない。実施予定すらない。未回答が3となっている。グループホームは地域の中で、繋がりが薄くなりやすい施設ではある。この結果はコロナによるものなのか教えていただきたい。</p>
貝田副主幹	<p>コロナだけが理由ではないと思う。未回答のところは、実際開催していないところになる。開催していないことで答えにくかった部分もあるのかもしれない。事業所とは紙面でのやりとりを行った。</p>
議長 (白井会長)	<p>グループホームやデイサービスは会社組織になっているが、個人が担っている部分が多く、日々何とかやりくりしている状況となっている。音頭を取り、感染対策をしながら集ってもらい、意見、要望、情報のやりとりをしていかななくてはいけないところではある。</p>
議長 (白井会長)	<p>以上で本日の議題を終了とする。</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

4年 12月28日

議長の署名

白井 秀